

Reliability and utility of ultrasound imaging assessment methods for shoulder
subluxation in patients with stroke

加賀市医療センター
リハビリテーションセンター
岡崎 太洋

要約

【目的】超音波検査により acromion-greater tuberosity (以下 AGT) 距離を算出し、その信頼性と妥当性を確認した上で、AGT 距離と脳卒中による機能障害との因果関係を統計的に解明する。

【方法】発症後 1 ヶ月～5 ヶ月の脳卒中者 24 人に、麻痺側上肢の運動麻痺、痙縮、疼痛、肩関節可動域、感覚障害、触診で亜脱臼の有無の評価をした。超音波検査は AGT 距離と上腕二頭筋長頭腱の評価を行った。

【結果】AGT 距離と触診による亜脱臼の評価では有意な相関が見られた。また、AGT 距離と機能障害では、痙縮、上腕二頭筋長頭腱の厚さと運動時疼痛も正の相関が見られ、運動麻痺、肩関節可動域は負の相関が見られた。

【結論】AGT 距離と触診を用いた亜脱臼評価では相関関係がみられ、超音波検査による AGT 距離の算出は妥当性があるといえる。今回 AGT 距離と他の機能障害との相関関係が証明されたことにより、未だ不明な点が多い、亜脱臼の原因や肩の痛みとの因果関係が今後より解明されていくことが期待できる。